

第1回北海道結核対策協議会（書面会議）での委員からのご意見

資料1

委員名	素案たたき台へのご意見	ご意見への対応
網島 優	<p>・現状（結核の医療体制）について 行政の立場としては「公称」の数字で話をしないといけないのだと思いますが、現状は結核病床、モデル病床数とも実際に運用している（出来る）数字はこれより少ないと理解しています。現状の所にそのことを書かないとしても、課題の所には、基準病床を超えているから病床数には問題がないとはいえない、という言及は必要と考えます。</p>	素案（案）に反映
	<p>・今後の施策の方向性について 全ての三次医療圏での「結核病床」確保は難しいのではないのでしょうか？「モデル病床」も加えてはいかがかと。</p>	素案（案）に反映
	<p>*外国出生者対応についての言及は必要だと思います。北海道は他都府県に比較するとまだ少ない方だと思いますが、今年に入っても当科で2件治療しており、疑い例、検討中、肺外結核で他施設で対応中の症例もあると聞いています。</p>	素案（案）に反映
黒沼 幸治	<p>わが国の結核は高齢者結核が多いのが特徴ですが、今後も次第に減少していくことが予測されます。広域医療圏での診療においては現行以上に結核病床を確保することは難しく、むしろ空気感染対策の可能な感染症病床を結核病床として利用する形で整備する方針が望ましいと考えます。</p>	今後の検討の参考にさせていただきます。
	<p>結核診療の遠隔支援の仕組みは是非とも取り組むべきと考えます。</p>	素案たたき台に記載済み
	<p>身近に結核を診療する機会が減少するなか、医療従事者の教育も大変重要と考えます。</p>	素案たたき台に記載済み
	<p>わが国はアジアでは希少な低蔓延国となりましたが、周辺国にはまだ高蔓延国が多いのが現状です。インバウンドの再開に伴い外国人結核の再増加も懸念されます。かつてより北海道への直行便も増えており、外国人労働者も増える中、北海道としての対策が必要と考えます。大阪市の対策ガイドを添付致しますが、参考になるものと思います</p>	素案（案）に反映
佐々木 高明	<p>本道の広域分散型と冬期寒冷の特性、そして地域のニーズを鑑みて、第三次医療圏ごとに結核病床を確保する提案は理解できます。それに伴い、結核患者の治療を担当する病院を中核的な病院が遠隔で支援する連携体制の構築も、重要であると考えます。 しかし、今後の低蔓延化を考慮すると、全ての第三次医療圏で結核病床を継続的に確保することは、実際上困難となる可能性が考えられます。この背景を踏まえ、ユニット化や病床単位の入院医療体制の推進を引き続き検討する必要があると考えています。</p>	今後の検討の参考にさせていただきます。
	<p>さらに、結核などの感染症専門医の不足は引き続きの課題となっております。この点について、Dx技術の活用による中核病院と地域の連携病院との情報交換が、新型コロナのような有事の際にも効率的かつ質の高い医療提供の鍵となると考えます。</p>	今後の検討の参考にさせていただきます。

三觜 雄	<p>(現状) (感染者の発生状況)</p> <p>北海道の罹患率は、平成27年(2015年)の9.9以降減少傾向が継続し、「低まん延」地域の基準を満たしています。</p>	素案たたき台に記載済み
	<p>(現状) (感染者の発生状況)</p> <p>「結核の統計2022」によると、北海道の新登録結核患者数のうち60歳以上は186人(83.0%)、70歳以上は160人(71.4%)、80歳以上は118人(52.7%)を占めています。新登録結核患者の中で、高齢者が大部分を占めている現状を改めて強調して記載されたいかがでしょうか。</p>	素案(案)に反映
	<p>(現状) (感染者の発生状況)</p> <p>北海道の新登録結核患者の中で、日本国籍を有していない技能研修生等の外国籍の方々ほどの程度いるのか、データがあれば記載する意義はあるのではないのでしょうか。</p>	素案(案)に反映
	<p>(現状) (感染者の発生状況)</p> <p>例年刊行される「結核の統計」に記載される「北海道」分としての新登録結核患者数には、「道立保健所」所管分だけではなく、「旭川市保健所・市立函館保健所・小樽市保健所」各々所管分も含まれている、とお伺いいたしました。この事実を知らない道内保健医療関係者は少なくないと思います。</p> <p>○ 令和3年では、旭川市保健所17人・市立函館保健所37人・小樽市保健所11人と把握しています。従って、道立保健所々管分では159人となり、札幌市保健所々管分111人を加え、北海道全体では335人となります。</p>	<p>素案(案)に反映</p> <p>※素案(案)には、令和4年の北海道全体の合算数値を記載</p>
	<p>(現状) (感染者の発生状況)</p> <p>北海道内で「結核集団感染」が何件程度発生しているか、今後も注意が必要であるとの意味合いも兼ねて記載されてはいかがでしょう。</p> <p>○ 令和2年(2020年)は全国で15件、道内で1件と把握しています。</p>	素案(案)に反映
	<p>(現状) (感染症発生動向調査)</p> <p>この記載からは、具体的な事業内容がよくわからないかと思います。</p>	素案(案)に反映

<p>三觜 雄</p>	<p>(現状) (感染症発生動向調査)</p> <p>「結核菌分子疫学検査(VNTR)」の実施を念頭に置かれていると思いますが、道立保健所々管分においては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結核菌陽性者がどれくらいいて、</li> <li>・このうちのどの程度の結核菌株が確保でき、VNTR検査が実施出来ている割合はどれくらいか？</li> <li>・クラスターを形成している割合はどれくらいか、</li> <li>・聞き取り等の従来の疫学調査で関連が確認出来ず、VNTRで関連(リンク)が判明した事例はどれくらいあるのか、</li> <li>・北海道内においてまん延、流行している特定の菌株はあるのか、</li> </ul> <p>等、分かれば結核医療あるいは保健所関係者にとっては興味深いところだと思います。</p>	<p>今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
	<p>(現状) (結核の治療体制)</p> <p>直接服薬確認療法(DOTS)がどの程度の患者さんで実施されているか、また保健所・医療機関の他にどのような関係機関(薬局、訪問看護ステーション等)が連携出来ているのか、リストアップされれば参考になるかと思いますが。</p>	<p>今後の検討の参考にさせていただきます。</p>
	<p>(現状) (結核の治療体制)</p> <p>結果として、北海道の治療成績がどのような現状にあるのか記載する必要があると思います。</p> <p>○「結核の統計2022」(96ページ)によると、北海道の治療成績は、「治癒」65人(28.3%)・「完了」66人(28.7%)・死亡70人(30.4%)・失敗0人(0%)・脱落中断5人(2.2%)・転出5人(2.2%)・治療中18人(7.8%)・不明1人(0.4%)となっていること、「治療成功」(治癒および治療完了を併せ)は131人(57.0%)である。</p>	<p>素案(案)に反映</p>
	<p>(課題) (感染者の把握)</p> <p>日本人では、定期健康診断での発見率が低い一方で、医療機関受診による発見が大多数を占めている現状から、有症状時の早期受診の勧奨を強化の必要性を強調したらいかがでしょうか。</p>	<p>素案(案)に反映</p>
	<p>(課題) (感染者の把握)</p> <p>「特定の集団」を具体的に記載する必要があると考えます。</p> <p>○一例として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、</li> <li>・住所不定者、</li> <li>・(結核高負担国から来日された)技能研修生等、特に外国出生者については定期健康診断で高率に発見されている。</li> </ul>	<p>素案(案)に反映</p>

三觥 雄	<p>(課題) (感染症発生動向調査)</p> <p>「現状」での記述と同様、具体的な内容がよくわかりません。</p>	素案(案)に反映
	<p>(課題) (結核の医療体制)</p> <p>基礎疾患〔身体的(ガン、糖尿病、透析等)あるいは精神的(認知症、徘徊等)]を有する結核患者が、三次医療圏を越えて医療機関に入院せざるを得ない状況は、患者や家族にとっては非常に利便性が悪いだけでなく、療養環境として望ましくない。結核患者が、三次医療圏の中で治療・療養出来るよう、少なくとも1カ所の結核患者収容モデル病室の設置が必要であると考えます。</p>	素案(案)に反映
	<p>(今後の施策の方向性) (感染者の把握)</p> <p>これらに加え、外国人技能実習生(結核高負担国から)等が北海道でも増加する可能性が高いと思われます(もうすでに道内各地で就労しているようですが)。</p> <p>○ 結核入国前検査が十分機能を果たしていない現状を踏まえ、管轄保健所及び地元市町村関係者等と協力して、健康診断受診を促すとともに、受診後の治療継続や健康管理を含めて情報共有できる体制の整備をお願いしたい。</p>	素案(案)に反映
	<p>(今後の施策の方向性) (感染症発生動向調査)</p> <p>結核菌株を収集するにあたり、各保健所は医療機関だけでなく臨床検査センター等とも連携し、可能な限り、検出される全ての結核菌株の確保に努める。</p> <p>○ 結核菌分子疫学検査(VNTR)は、道立保健所・市立函館保健所 → 北海道衛生研究所で、札幌市保健所 → 札幌市衛生研究所で、小樽市保健所 → 結核研究所で、旭川市保健所 → 随時必要な際実施する、と以前聞いております。</p> <p>・各々の保健所々管内での解析だけでなく、(個人情報に留意、配慮した上で)北海道全域で照会可能なシステムがあれば、北海道での流行状況の把握に有益であると考えます。</p>	今後の検討の参考にさせていただきます。
	<p>(今後の施策の方向性) (人材確保と連携体制)</p> <p>「令和4年度結核対策推進会議」の中で、「奈良県結核対策医師相談・地域連携事業」が紹介されていました。</p> <p>○ 結核の専門機関の医師が、地域と連携し結核診療体制を強化することを目的に開始された事業で、地域の結核対策に関わる職員からの相談に応じたり、研修会を開催して最新情報を提供したりしていただけたとのことでした。</p> <p>・地域の医師会員はもとより、様々な医療に関わる方々(保健所職員、薬剤師会員、訪問看護ステーション等)の結核医療に関する質の向上に寄与出来る事業ではないか、と北海道でも参考にいただければと考えます。</p>	今後の検討の参考にさせていただきます。